

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3070101914
法人名	社会福祉法人 安原福祉会
事業所名	あいの里
所在地	〒和歌山市松原306-1 (電話)073-479-2500

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年6月10日
評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.0人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨スレート葺き 造り 平屋 建ての 1階 ~ 1階部分
------	---------------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.6歳	最低	80歳	最高	89歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	寒川内科医院、はぶ内科医院、田井歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安原福祉会が運営するホームの一つで、緑豊かでのどかな田園地帯にあります。地域との関わりが熱く、通学路にもなっていることもあり小学校の課外授業が行われたり、時々学童がトイレを借り立ち寄りして利用者の喜びに繋がっています。隣接する畑で作業をされている方に利用者が声を掛けたり、涼を求めて畑仕事の合間に立ち寄るなど、ホームの理念がそのまま生活となっています。利用者は時に花壇の手入れや水撒き、食事の用意やBGMの選曲にと自由に過ごされており、職員は寄り添いながら一緒に過ごしており、穏やかな時間が流れています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は、職員間で検討し、改善されています。洗剤などの危険物の管理をさらに徹底し、申し送りノートについては記入者や確認が明確になるように工夫がなされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	白紙の自己評価票に全職員が書き込みを行い、気づいたことをケア会議などで検討し、まとめています。自己評価によって新たな気づきに繋がり、改善に結びつけています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	安原会の3ホームが合同で行っています。利用者家族、地区民生委員、自治会長、地域包括センター、ホーム管理者によって2ヶ月に一度開催されています。それぞれのホームからの状況報告がなされ、地域から自治会や学区の行事の紹介や意見交換など活発に運営されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が家族主体で開催され、意見、不満や苦情等話し合える機会が設けられています。出された意見については、その都度対策が講じられ報告と共に改善に繋がられています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	田畑の持ち主と利用者は窓越しに会話が弾み、また暑い盛りには畑仕事の合間にホームで涼が求められ、お茶を飲みながら交流されています。ホームについて地域の方々の理解が得られており、たまによその徘徊者の問い合わせが寄せられたりもしています。家族会との共催で夏祭りが開催され、利用者は模擬店を出すなど力を発揮され、地域の方も多くが来訪されともに楽しまれています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「愛、信頼、笑顔」をもとに、「ホームは楽しみのある安穩な暮らし、地域で孤立せずいつでも立ち寄れる場、尊厳と思いやり」というホームの独自の理念をとして掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は職員が一体となって検討し、作成されたもので、日々の具体的な行動指針となっており、日常的にも話し合いながら実行に移しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の消防訓練や神社の餅投げなどの行事に参加し、ホームの夏祭りには地域住民も参加応援し、小学校の課外授業で学童が訪れ、相互に交流がもたれています。日常的にも子どもが立ち寄り、近隣の農作業中の方が涼を求め立ち寄るなど地域に開かれた場として位置付けられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けて、改善課題は早急に討議改善されています。洗剤などの管理をさらに厳しく行い、申し送りノートは記入者や確認者の押印欄を設けるなど改善がなされています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、法人の3グループで2ヶ月に一度開催されています。それぞれホームの活動報告、入居者支援の状況が報告され、地域交流や行事の案内などが議題となり、地域、家族を交えての意見交換が活発に行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務局が中心となり、ホームのケア報告や質問疑問も含め行政との連絡を密にし、ホームの透明性を図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	あいの里便りを発行し定期的に郵送しています。家族の来訪が頻繁で、その都度利用者のホームでの様子は報告しています。金銭管理については、立て替え金がある場合は、レシートと共に請求し精算されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年、数回行われ、意見要望や苦情が話し合える機会となっています。また来訪時にも家族との話し合いを重視し、よく聞くようにしており、意見要望、苦情に対しては、チーム内での解決や上司の判断を仰ぐなど解決の方向を議論し、報告がなされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動時には利用者に紹介し、覚えてもらうまで日勤で声かけを重ね、馴染みの関係を深めています。馴染みの関係が出来た時点で夜勤に入るようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画にそって職員の研修は進められています。認知症実務者研修、実践者研修も含め段階に応じた研修で現場での質の確保を心がけています。研修報告書が回覧され、疑問や質問などが会議で出され情報の共有がされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会において、意見交換が行われ、法人内での親睦会などを通じ意見交換が行われています。	○	意見交換の機会が法人内外にあり管理者やリーダーを中心に意見交換が行われています。一歩進んで職員が交換研修のような形で、他同業者との相互訪問を行うなどの機会を持たれることで、サービスの質の確認にもなるかと期待しております。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込時には必ず来訪を促し、入居前見学を勧めています。入院中の場合も含め訪問による聞き取りを重視し、利用者理解のなかで出来るだけ会話を多くし馴染みやすいように努力しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から発揮できる事を重視し、庭の草むしりや収穫物の管理やアドバイス、水やり、調理の手伝いと多くの役割を担っています。若い職員は利用者の孫のような存在となっており、お寿司や黒豆、筍料理なども教わっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いてヒアリングを行い、多くの情報を聞くようにしています。日常会話の中での要望を収集し、ケアに繋げています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、家族の意向を記入し、主治医、職員が話し合い、本人の意向を検討しケアプランの作成がなされています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員がそろってケアカンファレンスが行われ、状況の変化や気づきを記録し3ヶ月に一度評価を行い見直しています。8カ月に一度書き換が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員と共に地域交流センターの筋力トレーニングに出かけ、運動能力を高める方や、また要望に応じた買い物支援を行っています。理美容や通院は家族の対応を基本にしていますが、状況によって送迎を行ったりしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医を聞き、希望のかかりつけ医との連携を積極的に図り、往診も支援しています。医療連携もあり月二回の協力医の往診や週1回の訪問看護の支援があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来ること・出来ないことは家族と話し合っていますが、契約時に同意書を取り交わし、実際の対応時に更に終末期の契約を取り交わすようにしています。家族、かかりつけ医、関係者の同意を得て、対応・支援の方向に向かいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人間性への理解をもとにプライバシーや誇りを傷つけないように、利用者間においても配慮するようにしています。呼び方については、一部ちゃん付の方もおられますが家族、本人の希望にそって支援しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで利用者は生活されています。夜型の入居者は、深夜の就寝で朝は9時頃の起床となっており、ホームは利用者のペースで日常が送れる事を心掛けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはその日の食材を見て、利用者とも相談しながら決めていきます。旬の食材を配慮し、利用者と共にテーブルでモヤシのひげ根を取ったり、味付けなどのアドバイスを受たりしながら準備をしています。食事は和気あいあいの雰囲気、最高齢者は時間をかけながら、食事介助の必要な方も含めみんなで一緒に食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、朝や晩の希望があれば入浴が可能です。中心となる時間帯は昼前から夕方であるが、希望によっては夜間の入浴にも対応しています。個浴はもちろん機械浴や全身シャワーなど状況に応じての入浴が可能となっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	囲碁名人がおられ事務長が相手をしたり、以前踊りや歌でボランティア活動をされた方は音楽を聞かれたり、畑仕事や草むしり、水撒き等男性の方も役割をもって過ごされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に一度の外食は、車いすの方も含め全員参加で出かけています。ホテルのランチバイキングや貴志川線の有名な猫のタマ駅長を見に行く企画など希望があれば実現に向けて検討しています。農道がホームの横に伸びており、日常的な散策道の一つとなっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていません。玄関に利用者が立てば職員がさりげなく付き添い、また別の利用者が声をかけてくれるなど職員、入居者は助け合いながら一緒に過ごされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いのもと、年2回避難訓練を行い、防災の学習会や消化器の取り扱い、夜間想定避難訓練などが行われています。小学校で行われる広域防災訓練にも参加しており、地域住民の協力依頼のステップとなっています。	○	地域の協力的な関わりがあり、さらに進んでホームの訓練に地域の参加協力を求める意向ですが、運営推進会議への提案などにより早期の実現を期待いたします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、水分は1日1ℓを最低目安として配慮するようにしています。また定期的な体重チェックで肥り過ぎがないように心掛けています。ミキサー食やとろみなど利用者の状態に合わせた調理もなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員で作られた季節のポスターがリビングを飾り、庭に咲く花は利用者の手で花瓶に生けられています。食材もまた季節を告げる一助となり、利用者の希望で料理され、良い香りが漂っています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなテレビや、マッサージチェア、写真、仏壇、人形などこれまでに使われていた物や大切にされていた物を持って来られています。昼食後は居室で一息入れる方も多く、居心地の良い空間となっています。		